ご近所福祉シリーズ

ご近所ボランティア活動手帖

住民流福祉総合研究所
木原孝久

はじめに

超高齢化や介護保険制度の行き詰まりなどから、住民の助け合いに期待がかかる今、「ご近所」（５０世帯）で活躍する世話焼きさんの出番となりました。助け合いは唯一、ご近所で行われており、その主役があなたなのです。あなたが今、ご近所でやっていることを少しだけパワーアップすればいいのです。

大規模な福祉サービスが目につきますが、本当の福祉は「１人ひとりの願いを大切に」です。ご近所でしかできません。あなたの足元を理想の助け合い集落にしてください。そのために社会福祉協議会や町内会、民生委員等を上手に活用しましょう。

これまでご近所という場は、福祉関係者の関心の外にありました。今でもそうです。福祉活動は、圏域で言えば第１層や２層でなされるものと考えられてきました。ここに担い手も受け手も集めるという、効率的な推進方法ですが、そろそろこのやり方にも限界が見えてきました。

福祉の現場はあくまで、当事者がいるご近所であるべきです。そこで当事者のために日々、活動している世話焼きさんを主役に据えるべきなのです。関係者はセンターに住民を引き込むのでなく、住民のいるご近所に結集すべきです。この筋論に立脚して本手帖が誕生しました。まずは世話焼きさん自身に、使い勝手を試していただければと思います。

＜目次＞

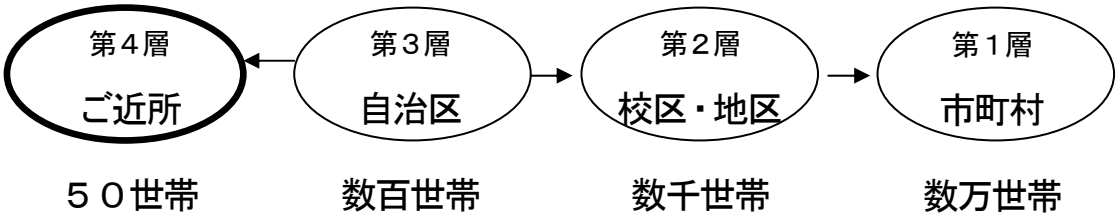
第１章　あなたの活躍の舞台－ご近所とはどういう所？／４
第２章　どこからどこまで？－担当するご近所の概要／９
第３章　あなた自身と仲間のこと－世話焼きさんとはどんな人？／１１
第４章　グループと活動づくり－「ご近所ボランティア」とは？／１５
第５章　メンバーや活動テーマ探し－支え合いマップの作り方／１７
第６章　いつだれとどこで－支え合いマップづくり体制／２０
第７章　マップづくりで抽出－「気になる人」と解決策さがし／２２
第８章　ご近所福祉がめざす－スモール・イズ・ビューティフル／３２
第９章　本書が提案する－「ご近所ボランティア」の定義／３４
第 10 章　実験をして支援－ご近所ボランティアのモデル指定／３６
取り組み課題の整理／３８

＜第1章＞あなたの活躍の舞台

「ご近所」とはどんな所？

よく言われる「ご近所」は曖昧な表現で、その規模もはっきりしません。私たちが言う場合は、はっきりしています。「５０世帯」、幅を広げると３０～７０世帯です。

長年、全国で「支え合いマップ」を作ってきて、人々はこの範囲でふれあい、助け合っていることがわかったのです。



「ご近所」は地域全体のどこに位置するのか。上の図にある通り、第４層にあります。一般的に地域は第３層までと考えられていますが、福祉の観点からすれば、この第４層はじつに重要な圏域なのです。

1.「ご近所」の４つの特徴

「ご近所」という圏域は、他の圏域と異なる４つの特徴があります。

❶顔が見える範囲。だから助け合いがしやすい。

❷要援護者（当事者）がいる。

要援護のため、ここから出られない（ここが生活圏）。

❸世話焼きさんがいる。

町内は広すぎて活動しにくい。ご近所は人材の宝庫。

❹人々はご近所独特の流儀で助け合っている。

ボランティアもこの流儀を尊重することが必要。

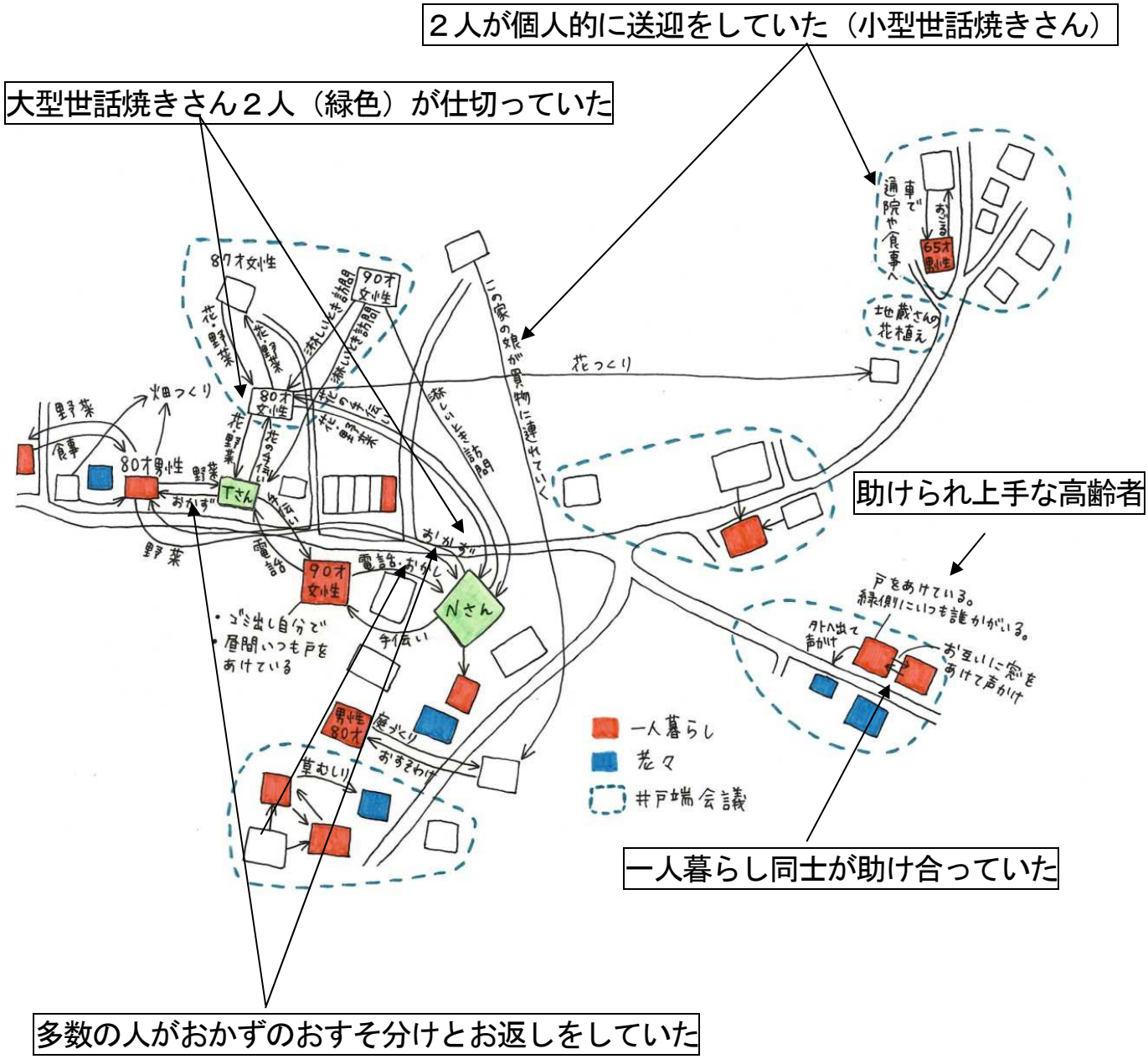
要援護者は、心身の状況ゆえにご近所の外まで行かれず、ここが生活圏になっています。だから真っ先にご近所福祉を充実させてほしいと願っているのですが、公的な福祉はまだご近所福祉に向いていません。

しかし、ここには世話焼きさんがいます。既に日々、要援護者のお世話をしています。この世話焼きパワーをもう少し強化すれば、わずか５０世帯の範囲なのですから、何とかなるはずです。

関係者がまだ踏み入っていない今こそ、世話焼きさんが自由に活躍できるチャンスと捉えたらどうでしょうか。

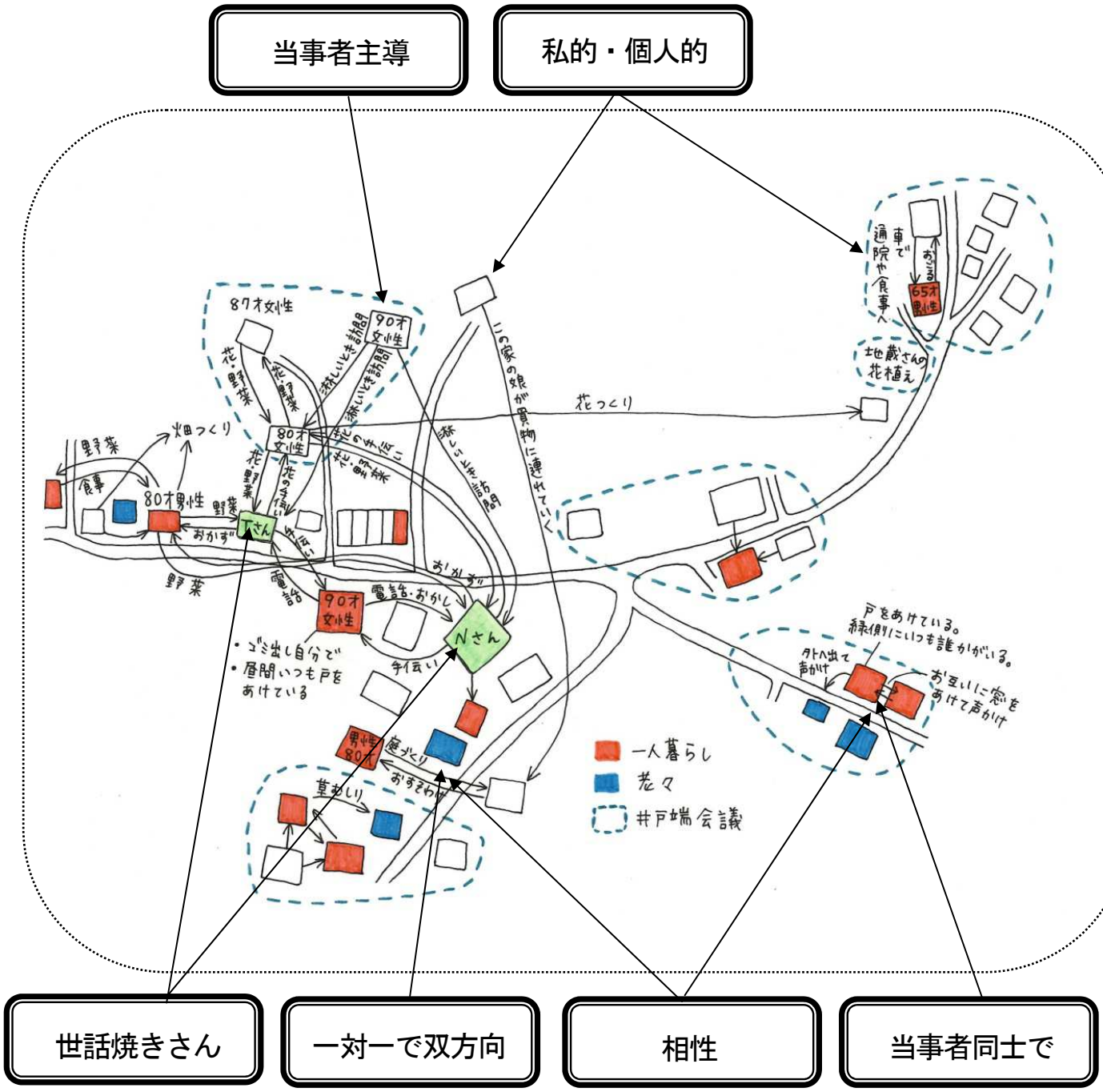
2.ご近所では助け合いをしていた！

ご近所では、すでに助け合いが行われています。支え合いマップを作ると、それがよく見えます。これを「自然発生の助け合い」としましょう。



3.ご近所流助け合いー６つの特徴

ご近所での助け合いには独特の流儀があります。前頁のマップに沿って説明しましょう。



❶当事者主導

要援護者の側が「これをして下さい」とお願いする。

❷私的・個人的

車での送迎も、おかずのおすそわけも、２人の私的な関係の中で行われている。

❸世話焼きさん

ご近所では、困っている人を助ける天性の資質のある人（世話焼きさん）が活躍している。

❹一対一で双方向

複数の相手をまとめてサービスをするのではなく、一対一で、しかも双方向（お返しがある）。

❺相性

日常的な関わり合いとなれば、相性が合わないとうまくいかない。

❻当事者同士で

要援護者同士が助け合えば、これも双方向。

＜第2章＞どこからどこまで？

担当するご近所の概要

まずは自分が活動する、または後方からサポートする「ご近所」の概要を確認します。

1.担当する「ご近所」の特定

自分がこれから活動に取り組むご近所は、どこからどこまでなのかを特定します。特定する方法は以下を参考にしてください。

❶自治区（町内）自体がご近所になっているケース

普通、自治区といえば３００～５００世帯で成り立っているが、その規模が小さく、５０～８０世帯になっている地区。

❷例えば「１班と２班はよくまとまっている」などと分かっているケース

道路や川で区切られていて、事実上の「ご近所」を成り立たせている地区。

❸一つの班が３０数世帯あって、一つのご近所を形成しているケース

いずれ分けられるだろうが、今のところマンモス班のままでいる場合。

❹支え合いマップを作る中で、住民の交流実態を調べていて、自然に「ご近所」が浮かび上がってくる場合もある

2.担当する「ご近所」の概要

基本的な事実関係を明らかにします。そのためにはまず、「ご近所」はどこからどこまでなのかを、一応線引きします。例えば１班と２班がよく交流しているからここを一つのご近所とする、という程度でいいのです。

ご近所の範囲 世帯数（人口）	
住民の 生活状況	
生活環境 自然環境	
隣接ご近所や 所属自治会の 状況	

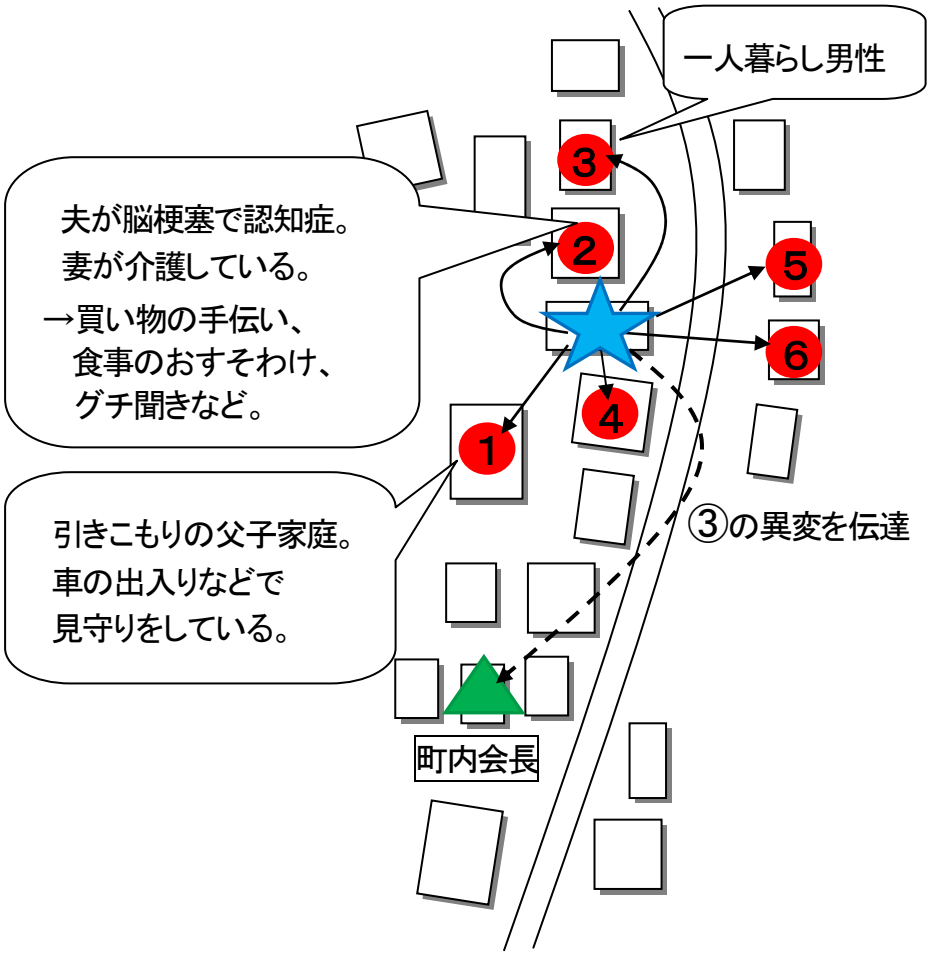
＜第3章＞あなた自身と仲間のこと

「世話焼きさん」とはどんな人？

ご近所での助け合いを効率的に進めるためには、助け合いを進める人は世話焼きさんを中心にすべきです。では、その世話焼きさんとはどういう人か？

1.見守りからおむつ替えまで

世話焼きさんはご近所でどのように行動しているのか。



８０歳近くで、要援護の一人暮らし女性（星印）。それでも数軒の面倒を見ていた。

❶は最近越して来た引きこもりの父子。ほぼ１日中見守っている。

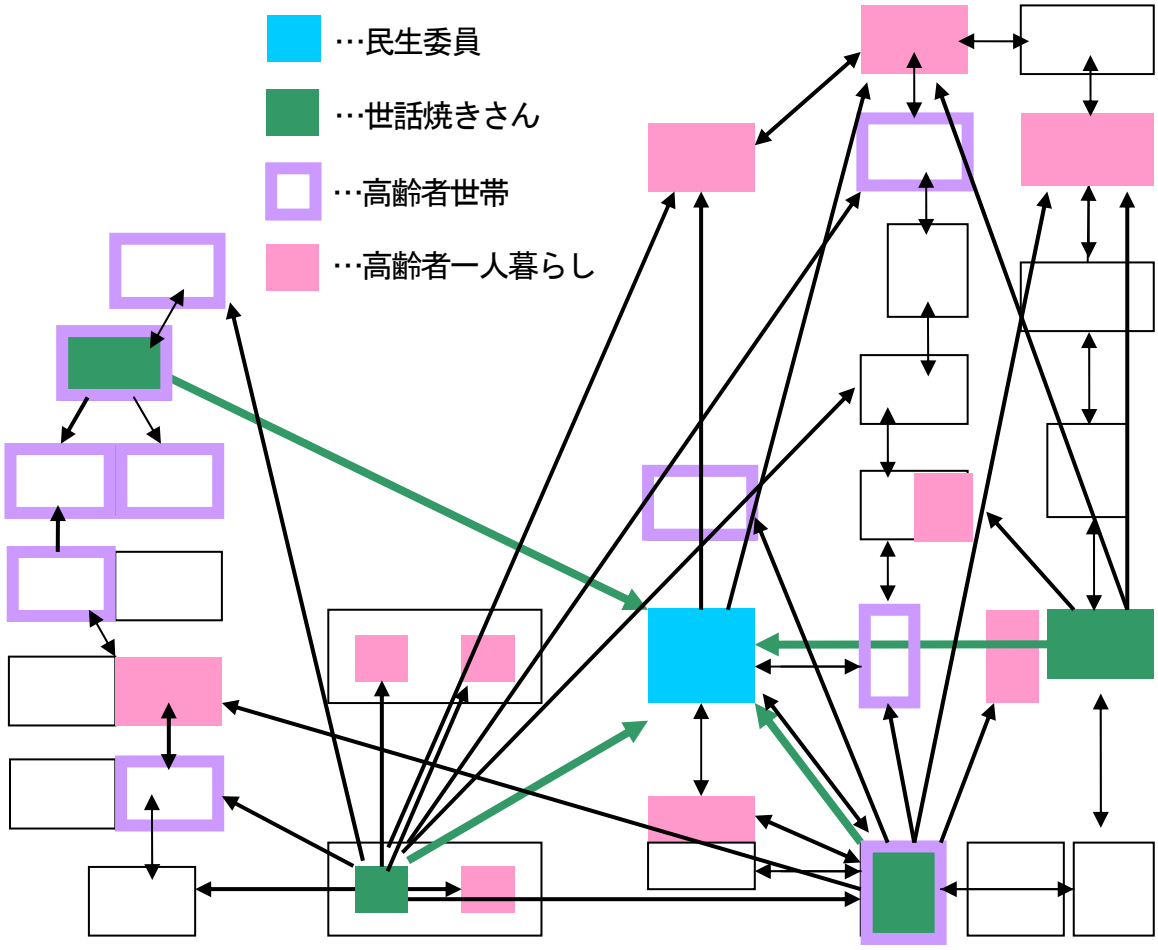
❷は要介護の夫を介護している女性。買い物手伝いやおすそわけ。

❸は一人暮らし男性で、最近異常を発見し、町内会長に連絡した。最近要介護になり、おむつ替えに通っている。

それ以外にも❹❺❻にもいろいろお世話をしている。

2.大中小の世話焼きさん

下のマップは、緑が大中の世話焼きさん。１０名程度へ関わりの線が出ているのが大型世話焼きさん、５名程度が中型世話焼きさん。



3.世話焼きさんとはこんな人

活動の仲間を探す時の参考にしてみてください。

❶困っている人がいると、気になって仕方がない。

❷問題を見つけたら、即座に動き出す。

❸要援護者に見込まれる。

❹嫌いな人がいない。だから、だれでも助けてしまう。

❺世話焼きさんと世話役さんは違う

「世話役さん」は、いろいろな役を持っている人。一方「世話焼き」さんは、人の面倒を見るのが好きな人で、どちらかといえば役は持ちたがらない。

❻天性の資質で、養成には馴染まない

一言で言えば、困っている人を見ると放っておけない人で、困り事を見つけたらすぐに関わるので、要援護者にも見込まれるのです。ご近所の助け合いをリードするのはこのような人が適役なのですが、私たちは人を肩書で評価しがちです。本当に助け合いのご近所を作るためには、肩書きに関係なく、ご近所福祉に適した人材を選ぶことが大切です。

4.世話焼きさんをどうやって見つける？

では、そのような人材をどのように見つければいいのか。

❶支え合いマップを作れば、見えてくる。その人から線がたくさん出ている。

❷民生委員も、ご近所ごとに数名の世話焼きさんを把握している。

❸世話焼きさんは他の世話焼きさんを知っていることが多い。世話焼きさんに聞こう。

❹地域によく出ている人なら、面倒見のいい住民を知っているはず。

❺ボランティア・グループの中にもいる。

❻婦人会、生協、ＪＡ、老人クラブの中にもいるはず。

❼福祉のプロにもいる。ヘルパー、ケアマネジャー、介護福祉士など。

❽世話焼きさんは主として第４層（ご近所）で活躍しているので、この層でよく探してみる。

❾上の層にいるとすれば、超大型世話焼きさん。自分で要援護者に関わるだけでなく、他の人を上手に活かすこともできる人。複数のご近所をバックアップできる。

＜第4章＞グループと活動づくり

「ご近所ボランティア」とは？

ご近所ボランティアの基本的なあり方を整理しました。

1.メンバーの揃え方

❶一応基本になるメンバーは決める。

❷常にオープンにし、他の人の参加を妨げないし、「曖昧な位置」の人も容認する。

❸住民の自発的な活動だから、「自治会役員や班長にも入ってもらう」といった配慮はしない。何よりも、活動しやすい環境をつくる。「すぐ活動が始まり、すぐに成果が出る」グループに。

❹原則としてご近所に住んでいる人で構成。

2.活動場所

❶活動場所は、自分が在住するご近所（５０世帯前後）。

❷関係機関が、ご近所で取り組むべき活動を上層へ持って行かないようにする。

❸必要に応じて、隣接するご近所とつながってもいい。

3.活動のあり方

❶できるかぎりご近所流で活動する。

□あえて組織的な活動・計画的な活動・場所を特定した活動にせず、柔軟に、個別の活動を大事にする。「ミエミエの活動」にしないこと。

□担い手と受け手を分けようとしない。

❷自然発生の助け合いの生かし方

□支え合いマップ作りで浮かび上がってくる。

□これがご近所福祉の「基本財産」。大事にしよう。

□この営みに人工的な力を加えるのはあくまで慎重に。

□住民の主体的な活動を尊重し、陰から応援する。

□住民の活動を組織化したり、まとめたりしない。

❸人工的な活動のあり方

□ご近所流に従って活動を組み立てる。ここ（ご近所）は生活の場。「福祉」が突出しないように配慮する。

□有志ご近所さんの手で、ご近所という場で、ご近所さんの資源を使って、が原則。関係者もこれを遵守する。

□人工的な活動を発展させるのでなく、逆に自然発生的な営みに戻していく。

□自然発生の営みとうまく合流・調和できればベスト。

□これはご近所さんのボランティア活動。自然発生の活動と同様、町内会等がこれを縛ることはできない。

□マップを道案内に、常に携帯し、わからなくなったらマップ作りで、課題や人材、活用できる資源を探す。

4.他組織・機関との連携

❶あくまでご近所の、純粋にボランタリーなグループで、どこからも制約を受けない。

❷その上で町内会や民生委員、社会福祉協議会等との連携を大事に。支援も求める。

＜第5章＞メンバーや活動テーマ探しのために

支え合いマップの作り方

支え合いマップ作りは、ご近所ボランティアにとっての「道案内」。ご近所にどんな課題があるのか、人材はいるのか、世話焼きさんはいるのかなど、何をするにも、マップに「聞く」ことです。１回作って終わりではなく、必要であれば、目的を変えて何度でも作りましょう。

❶マップ作りの主催者

ご近所ボランティアが主催するのが基本。社会福祉協議会や民生委員等に手伝ってもらうにしても、この基本は頭に入れておきましょう。

❷支援者

社会福祉協議会、民生委員、町内会等、その地域の実情によって異なるでしょう。

❸参加者

既に仲間づくりができた世話焼きさんで作りますが、メンバーで協議し、他のご近所さんを加えてもいいでしょう。

❹用意するもの

模造紙大の住宅地図。太マジックペン。丸いシール数色（「一人暮らし」「要介護」などで色分けしてマップに印をつける）。

❺マップ作りの範囲

自分たちのご近所に限定するか、もう少し広げるかは状況に応じて考える。

❻進行

ご近所さんが進行役で、社会福祉協議会等がその支援役に（記入などを任せてもいい）。

❼要する時間

１時間半程度。その後に、取り組み課題を整理するための時間を取る（３０分～１時間）

❽プライバシーの問題

これからご近所で助け合いをするのだから、お互いがオープンになり合うことが必要。要援護者の情報が分からなければ助けられないので、助け合いの輪の中では情報を共有する。また、マップ作りで出す情報は、ご近所内でご近所さんが既に知っていることだけ。行政からの情報などは出さないように、支援者にも確認する。

❾住宅地図への記入し仕方

人の動きを矢印で示す。要援護者とその人に関わっている隣人を結ぶ線や、ご近所の人が集まる場など、助け合いに関わる線を記入する。

気になる状態を記入
関わりを矢印で
ご近所外へ行く場合も矢印で
入所
一人暮らし男性
内田
おすそわけ
田中
（元食堂）
食事会
出口
山本
（空き家）
油絵
認知症
鈴木
おすそわけ
宮崎
一人暮らし女性
85歳
戸田
元釣り仲間
中村
おすそわけ
元タクシー運転手
移送している
（引きこもり）
後藤
井上
徘徊ルート
どこかへ集まっている場合
認知症の人の散歩ルートなどは道路に沿って線を

＜第6章＞いつだれとどこで

支え合いマップづくり体制

マップづくりに参加する人をリストアップします。主役はご近所の住民です。それに民生委員などが協力するというのが基本的なあり方です。

❶参加者（ご近所の人たち）

氏名	役割	連絡先
	（例）元婦人会役員	

❷マップづくり協力者

氏名	役割	連絡先
	（例）民生委員	

1.支え合いマップ作成プラン

マップづくりは１回で終わりでなく、必要であれば、テーマまたは参加者を変えて何度でも作ります。

	年月日	予定 結果	参加者	主なねらい
1				
2				
3				
4				
5				

＜第7章＞マップづくりで抽出すること

「気になる人」と解決策さがし

マップ作りでやることは４つ。最も大切なのは、解決の手がかりを見つけることです。

❶気になる人・こと探し

よきご近所をつくるための課題をマップから抽出します。具体的には、気になる人・気になることを探します。

❷解決の手がかり探し

気になることの中に「問題」が潜んでいます。それを解決するための手がかりになりそうなもの（情報）をマップ作りの中で探し出すのです。この作業がいちばん重要で、しかも難しい。

❸解決策の決定

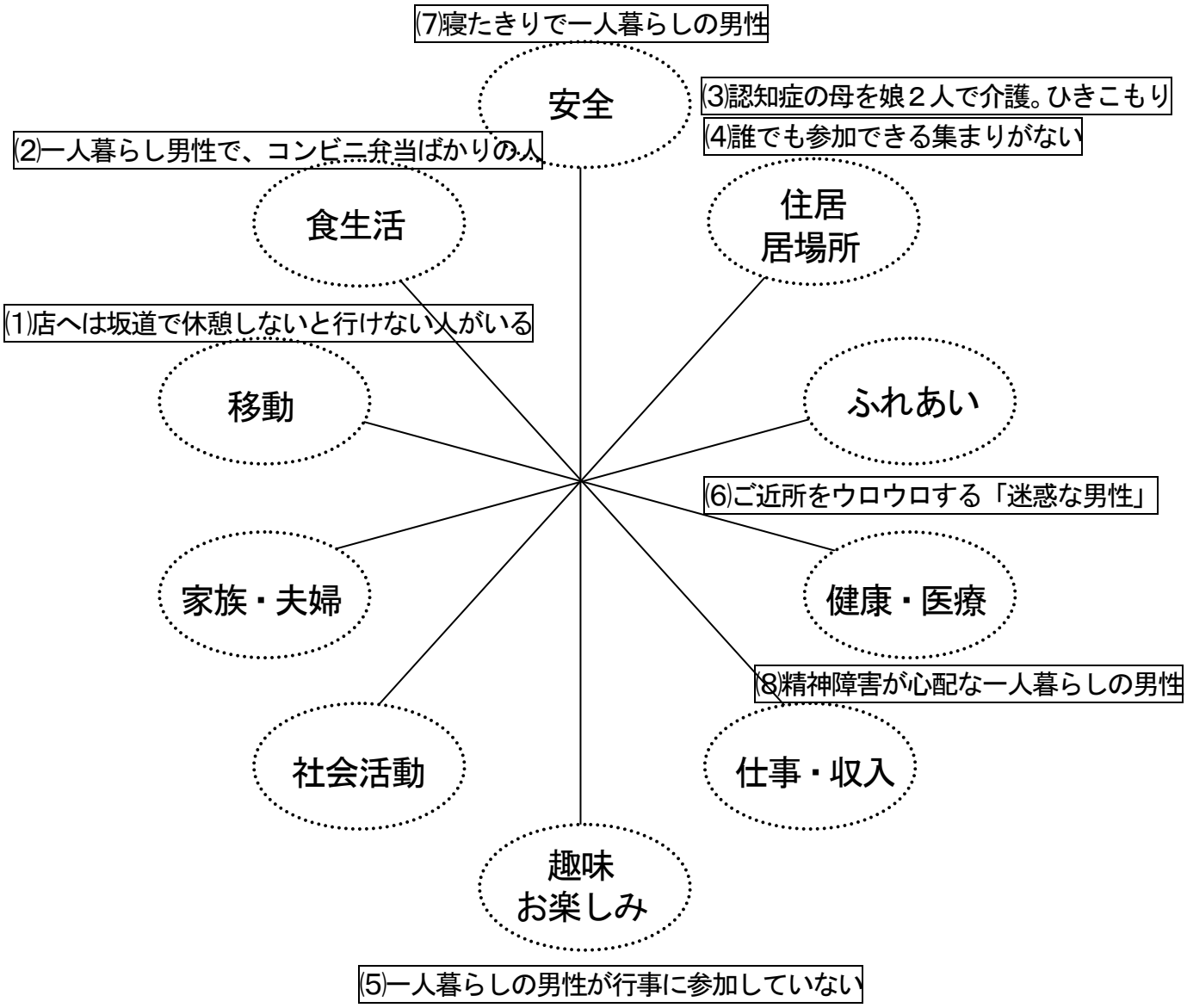
手がかりが見つかれば、それを基に解決策を考えます。大事なのは、ご近所内で、しかもご近所さんの手でできそうな策にすることです。

❹役割分担

ご近所さんだけではできない部分を、各層でどう役割分担するかを考えます。関係者は、問題を安易に上層に持って行ってしまわないようにします。大事なことは、この活動を通して、ご近所福祉をご近所さんの手で進めていくことなのです。

1.「気になる人」探しを１０項目で

気になる人を探し出すために、住民の生活の充足状況を点検する図を作ってみました。この１０項目で、ご近所の課題を探し出すのです。例として、あるご近所のマップ作りで出てきた問題を乗せてみました。



2.「気になる人」探しの重要ポイント

どんな点に着目したらいいか。項目ごとに解説します。

1.安全

□本人や家族も見守られ努力をしているか。

□一人暮らし同士が見守り合っているか。

2.住居・居場所

□息子（娘）に引き取られてきた人を受け入れる場や人はあるか。

□施設に入所した人の里帰りを家族が受け入れない場合、受け皿になる組織や場はあるか。

3.ふれあい

□デイ利用者がサロンに受け入れられているか。

□障害児者が子ども会や青年団に加わっているか。

4.健康・介護

□ご近所の元看護師などが介護者の相談に応じているか。

□認知症の人の家族が地域に協力を求めているか。

5.仕事・収入

□要介護の母と息子の二人暮らし。息子の仕事は？

□障害児者本人の能力開発で周りが協力しているか。

6.お楽しみ

□要介護で楽しみにしていたことをあきらめた人は？

□「迷惑な人」がこだわっている趣味はあるか？

7.社会活動

□要援護者を担い手にすることを考えているか。

8.家族・夫婦

□施設入所者は里帰りができているか。

□夫婦で地域グループへ参加しているか。

9.移動

□買い物等に不便している人に送迎をしている人は？

10.食生活

□毎日コンビニ弁当など食生活で不便をしている人に、何か支援をしているか。

3.解決の手がかり探し

下の事例は、あるご近所でのマップ作りの結果出てきた問題と手がかりです。

問題	解決の手がかり
⑴坂道で休憩しないと店まで行けない人がいる	❶自宅で休憩させている世話焼きさんがいた。 ❷雨の日は車で送ってあげているようだ。
⑵コンビニ弁当ばかりの一人暮らし男性がいる	❶ご近所に食生活改善推進員がいた。 ❷彼らが草刈りをしている。お礼が必要。
⑶認知症の母と娘。引きこもり	❶娘と会った時は声をかけている。 ❷母は以前、踊りのお師匠さんだった。
⑷誰でも参加できる集りがない	❶井戸端会議はあるが相性の合う人同士。 ❷使われていないが、町の集会所があった。
⑸一人暮し男性が行事に参加していない	❶以前この地で麻雀が盛んだった。 ❷多人数用のコミュニケーション麻雀も。
⑹「迷惑な男性」がいる	❶誰かと話をしたいのかも。
⑺寝たきりで一人暮らしの男性	❶災害時は避難支援をしようと協議していた。 ❷すぐ近くに福祉避難所がある。
⑻精神障害が心配な一人暮し男性	❶近くの元保健師が相談に乗っていた。

→ 解決策

⑴実践者を中心に移送者を確保。チーム作り

⑵彼らへのお礼としておかずの差し入れ。

⑶教え子に踊りの指導をしてもらう。

⑷集会所でふれあいサロンを開く。

⑸麻雀を復活させる。コミュニケーション麻雀も。

⑹新しく誕生するサロンの仲間に入れる。

⑺災害時の避難支援で個別のケース会議。

避難所でのお世話隊も結成。

⑻元保健師を中心に精神障害者の見守り体制作り。

4.「解決の手がかり」の探し方

手がかりを見つけるには、以下の諸点を頭に入れて、マップで探しましょう。

⑴住民からの手がかり探し

❶周りの人はどんな解決行動をとっているか？

❷それらしきことをやっている人は？

❸過去にそれらしきことをやっていた人は？

❹今、既にやろうとしている人は？

❺問題解決ができそうな人がいるか？

❻問題解決に役立ちそうな場や資源があるか？

⑵当事者からの手がかり探し

❶本人は何を望んでいる？ どうしたいのか？

❷どんな解決行動をとっているか？

❸本人は問題解決に役立つ能力を持っていないか？

❹過去に解決行動をとっていたことは？

❺問題と関係ないが何らかの能力を持っていないか？

5.課題は「ご近所」で解決する

ここで大事なことがあります。問題解決はご近所で、ということです。

⑴課題を上層へ持ち出さない

私たちがめざすのは、「誰もが豊かに生きられる」ご近所作り。そのためには、ご近所の課題はご近所で解決できるよう努力する必要があります。そうすることで「ご近所力」が強化され、ご近所の連帯も強まるのです。

今は、ご近所で生じた課題は、関係者によってほとんど上層へ持ち出されます。だから住民は、自分たちで何かをする必要はないと思うようになりました。しかしそれでは、豊かなご近所を作ろうという気力もなくなります。ご近所が一つの独立した圏域であり、住民が主体なのだという意識を育てる必要があるのです。

⑵「ご近所力」強化のための４原則

ご近所福祉を行う場合、以下の４原則を頭に入れて行動する必要があります。

①ご近所で対処

（課題を上層に持って行かず、ご近所で解決する）

②ご近所に結集

（関係者はご近所の問題解決でご近所に結集する）

③ご近所で調達

（できる限りご近所から資源を発掘し、活用する）

④ご近所で連携

（上層が受け持つ場合もご近所さんと一緒に解決する）

⑶もう一つのご近所力強化策

今紹介したのは、間接的にご近所力を強化しようということでしたが、もっと直接的にご近所力を強化する方法もあります。

①地域の様々なグループが、各々のご近所に帰って助け合い。

その助け合いに、ご近所の他の人も仲間に加える。力のある人をご近所で生かす。

②ご近所に住む保健福祉のプロ（元プロ）を生かす。

彼らはどこかのご近所に住んでいる。足元で自分の腕を生かしてくれれば助かる。

③既にその分野で活躍している人を積極的に活用。

食事関連なら、料理好き、おすそ分けをしている人、食事ボランティア等。

④ご近所で有償サービスも取り入れる。

ご近所に合った形で。無償と有償を柔軟に使い分ける。

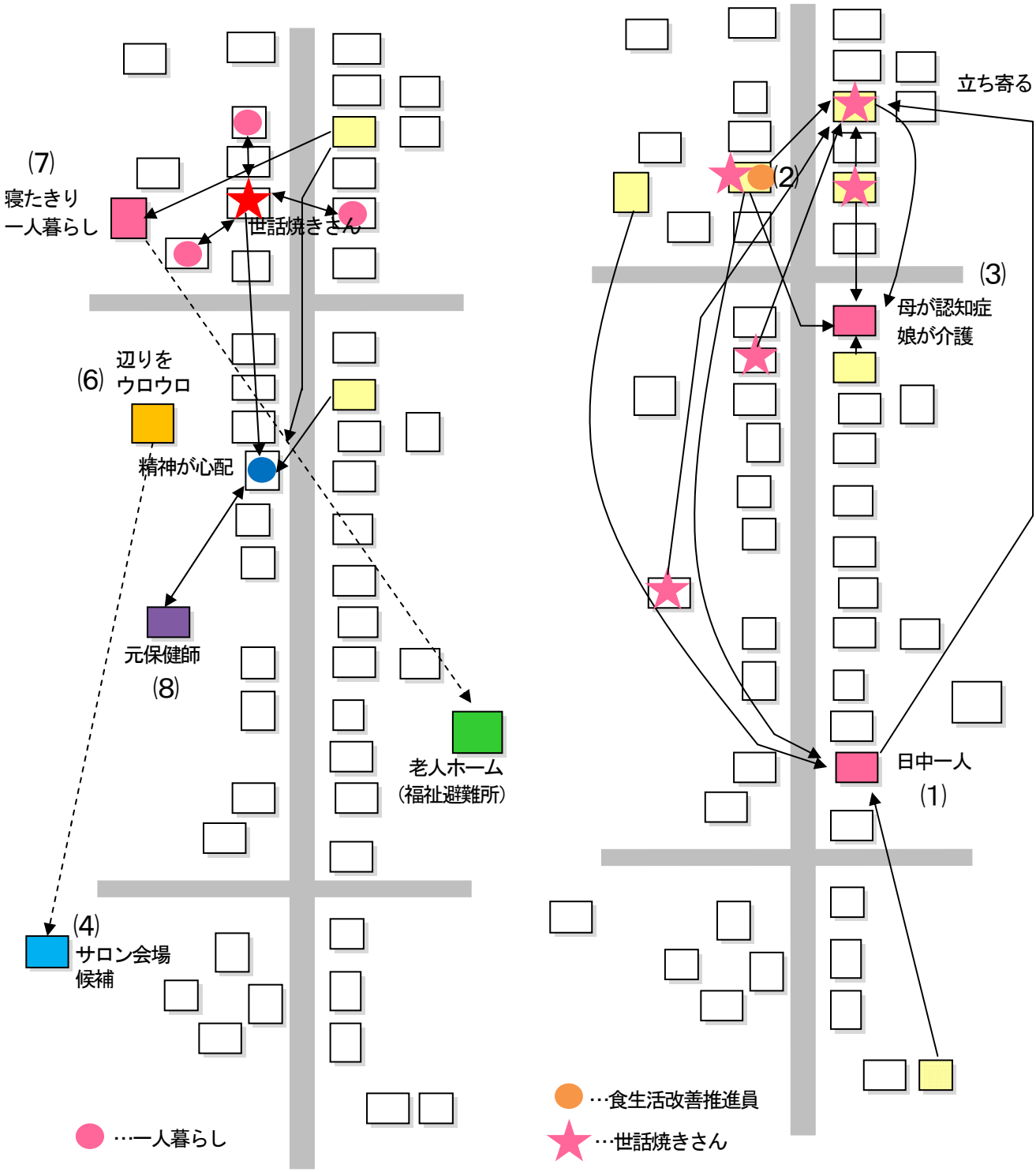
⑤町内圏域でやっていた活動を各ご近所でも。

趣味活動もサロンも敬老会もご近所圏域で。そこに要援護者も仲間として加える。

⑥当事者同士の助け合いをご近所圏域で。

ご近所での当事者組織は、日常的に助け合いができる点で有利だ。

［下の支え合いマップは、本冊子で事例として取り上げているご近所で作ったものです。(1)(2)(3)…と記したのが、このマップで出てきた取り組み課題に該当します。］



＜第8章＞ ご近所福祉がめざす

スモール・イズ・ビューティフル

これは世界的なベストセラーになった本のタイトルです。作者はＥ・Ｆ・シューマッハー。その中にこうあります。「人間というものは、小さな、理解の届く集団の中でこそ人間でありうる」。

⑴グローバル化で人間は救われたか？

私たちはグローバル化を追い求めてきました。どこかの小さな集団に所属するより、もっと大きな世界の人たちとつながっていくことを良しとします。しかしその結果、家族や地域関係が崩壊し、人々は孤立を深めています。

私たちは誤解しているのではないか。人間が人間らしくあることができるのは、それとは正反対の、ごく小さな集団の中でだったのです。そこでお互いの顔が見え、助け合いの可能性が生まれてくるのです。

ご近所での助け合いによって、福祉は大きな変化をもたらすことができるはずです。当事者の足元の福祉をしっかり固めることで、安心で豊かな生活を保障することができます。

⑵市の中心部から指令を発する福祉

今の福祉のあり方はあまりにも大雑把です。市の中央部のセンターに推進拠点を置き、そこからニーズを推測し、サービスをつくり、住民を集めて指導し、対象者

にはセンターまで来ることを求めています。また対象者を障害の種類などで分けて、特定の施設に集め、十把ひとからげのサービスを提供します。

⑶福祉の現場をご近所に移そう

そろそろ福祉の現場を、推進者の拠点であるセンターではなく、要援護者がいる（ニーズが存在する）ご近所に移すべきではないでしょうか。ここには、要援護者に関わる世話焼きさんもいます。人材をたくさん集める必要もありません。ここでこそ、（要援護者だけでなく）誰もが救われる理想の地域ができるのです。

「ご近所ボランティア」が目指しているのは、このような福祉の革命的な転換なのです。

＜第9章＞　本書が提案する
「ご近所ボランティア」の定義

ご近所でのボランティア活動をだれがやるのかは、自由です。それを特定の人やグループに限定したり、誰かが管理・指導したりすることはできません。

ただ、本書で「ご近所ボランティア」と言う場合、どういう人・組織、活動のことを指すのかをここで明らかにしておく必要があります。

❶５０世帯程度の「ご近所」であること

４ページで示した通り、助け合いが行われやすいのは５０世帯（３０～７０世帯）程度の範囲であり、本書ではこの範囲を「ご近所」と呼びます。

❷中心は「世話焼きさん」であること

世話焼きさんについては第３章で述べた通りで、いわゆる「世話役」さんではありません。世話焼きさんは、とにかく人の面倒をみるのが好きで、困っている人が見つかると即刻動き出すような人のことです。

❸ご近所内に在住の人であること

一般的に、ボランティアといえば、第１層の市域などで特定の問題の解決をめざしてグループを作るのが一般的です。つまり、それらの人材はご近所には不在なのです。

一方のご近所ボランティアは、あくまで自分が住んでいるご近所に腰を据えて、そのご近所の中で、ご近所の問題に取り組むのです。必要な資源も、できるかぎりご近所から調達するし、関係者も、ご近所に来て支援をします。

❹ご近所流の活動であること

一般的な福祉活動の仕方に慣れているとなかなか難しいことですが、とにかくできる限りご近所流を守って活動することです。活動がご近所流から離れても、いずれは元のご近所流に戻していくのです。元々あった自然発生の助け合いの中に合流していければベストです。

❺町内会などの関係機関から自由であること

これはご近所さんによるボランティア活動です。だれかの指示で動いているわけではありません。町内会などが、ご近所で活動するのは自分たちの役割だという認識から、ご近所さんの活動を管理しようとする場合がありますが、そのような関係機関の関与を受けることなく、自由に活動すべきです。

❻支え合いマップ作りをして課題を抽出

誰もがマップ作りをする義務はありませんが、残念ながらマップを作らないと、ご近所のふれあいや支え合いの実態はよくわからないというのは事実です。従って、本書で提案する「ご近所ボランティア」の条件には、マップづくりをするということも、条件の一つとして加えざるを得ないのです。

＜第10章＞　モデル実験をして、支援
「ご近所ボランティア」のモデル指定

ご近所ボランティアの推進はまだモデル実験の段階です。こういうあり方が本当に妥当なのか、住民も納得するのか、それ以前に実際に機能するのか。これから実験を重ねていかねばなりません。

そこでこれから、実践を始めたご近所の中からいくつかを選択してモデル指定をし、実験的に活動を継続していただくとともに、こちらからも様々な支援をさせていただくことを考えました。

⑴モデル指定の要件

❶「ご近所ボランティア」の定義に合致

前章の「ご近所ボランティア」の定義におおよそ合致していること。現段階ではあまり厳密にこれらの定義で候補を制限せず、該当しない部分は今後の課題とすることで、モデル指定する。

❷支え合いマップ作りをし、取り組み課題を抽出したご近所

そしてその課題に取り組み始めたご近所。つまり動き出したご近所。

❸モデル指定を受けることを了解したご近所

ご近所の側が何らかの事情で、モデル指定を受けられない場合も。

❹関係機関がモデル指定することを認めたご近所

関係機関とは、社会福祉協議会や町内会、民生委員など、いずれでもいい。ま

た、本研究所がモデル指定をする場合も。

⑵モデル指定を受けたご近所に求められること

❶支え合いマップを作って、課題を抽出し、その実践に取り組んでいく。

❷関係機関が開くご近所福祉関連集会等で成果を発表する。

❸関係機関がまとめる研究誌に寄稿、取材対応など。

❹他の地区でご近所福祉の進め方についてアドバイスをしたり、相談に乗る。

❺本研究所などが主宰するご近所福祉の研究活動に参加。

⑶関係機関の役割

❶モデル指定を受けたご近所を、関係機関同士で連携しながら、継続的に支援する。

❷モデルご近所が求める事柄にできる限り応える。

❸モデルご近所の活動成果について、ご近所と一緒にまとめて、ご近所福祉関連集会等で発表する。

❹ご近所の活動の成果について、機関の広報誌等で発表する。

❺モデルご近所が研究発表する場合、その発表内容等でご近所と協議し、一緒にまとめる。

取り組み課題の整理

1.「気になる要援護者」ー１人ひとりの取り組み課題

■個々の「気になる要援護者」の課題と対応策

＜見守り、困り事への対応、介護・ケア、豊かな生活支援＞

⑴_____さんへの対応

①問題

②解決の手がかり

③解決策

2.ご近所内の「気になる問題」への取り組み課題

❶「気になる要援護者」の共通課題と解決策

＜見守り、困り事への対応、介護・ケア、豊かな生活支援＞

❷住民の生活課題と解決策

＜買い物・通院が不便、交通事故の危険、若者不足で行事ができないなど＞

(1)＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿の問題

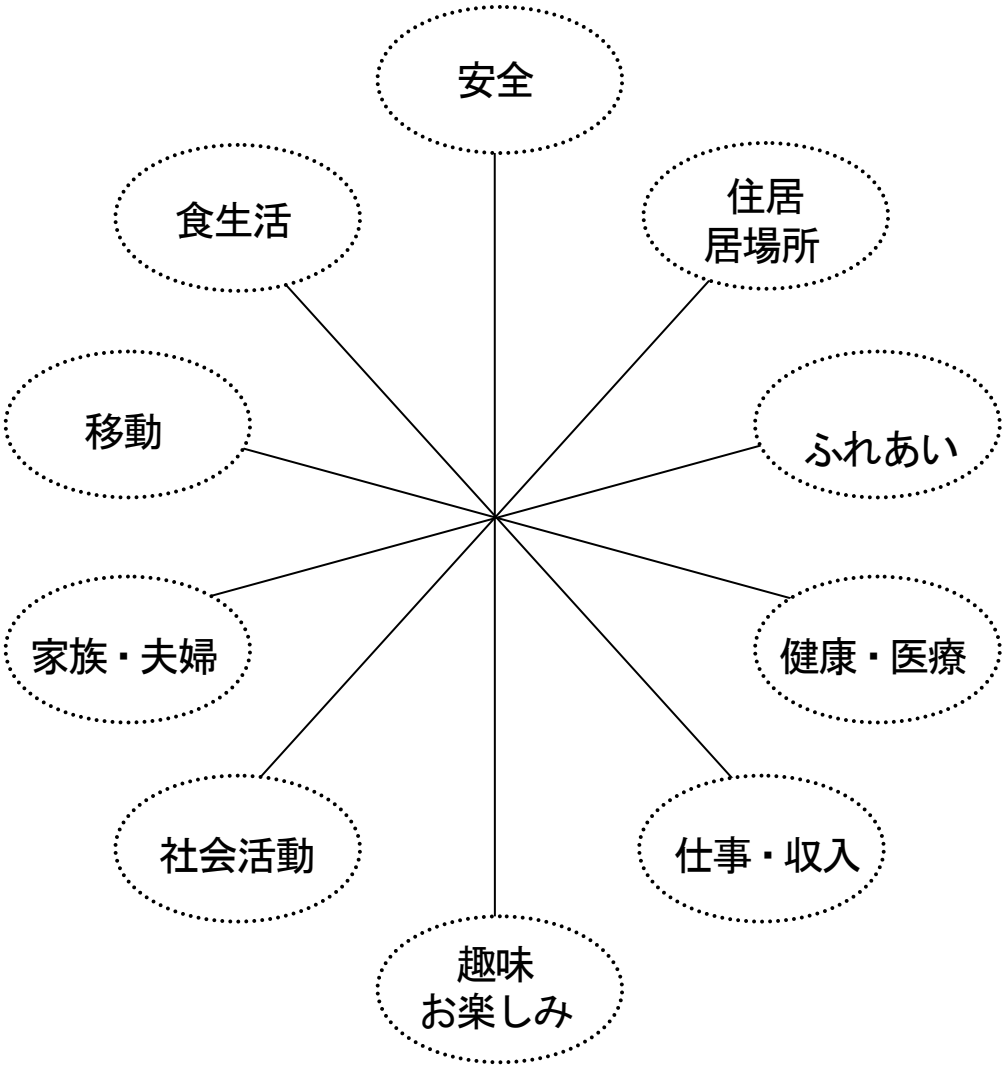
①問題

②解決の手がかり

③解決策

3.気になる人と解決策をのせてみよう

２３頁で紹介した、生活の充足状況を考えるためのダイヤグラムに、ここまで整理してきた、気になる人とその解決策をのせてみましょう。全体として、取り組み方が特定の活動やテーマに偏っていないかを点検しましょう。



4.解決行動の経過

年月日	活動経過	
	ご近所の役割	自治区・市町村の役割

5.ご近所福祉推進体制づくりと関係機関との連携方策

■ご近所福祉を担う仲間の発掘

＜大中小の世話焼きさんの掘り起こし＞

①＿＿＿＿＿＿＿＿さん＜役割＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＞

②＿＿＿＿＿＿＿＿さん＜役割＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＞

③＿＿＿＿＿＿＿＿さん＜役割＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＞

④＿＿＿＿＿＿＿＿さん＜役割＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＞

⑤＿＿＿＿＿＿＿＿さん＜役割＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＞

■関係者との連携の方法

＜①町内会、②民生委員、③福祉委員（協力員）、④ご近所内に所在する施設や福祉事業所、⑤地域包括支援センター、社会福祉協議会（市町村または地区）等とご近所福祉推進組織との連携のあり方＞

住民流福祉総合研究所
木原孝久

〒350-0451
埼玉県入間郡毛呂山町毛呂本郷１４７６－１
TEL049-294-8284
kiharas@msh.biglobe.ne.jp
http://juminryu.web.fc2.com/